

提言第10号 大腸内視鏡検査等の前処置に係る死亡事例の分析

事例11

< 事例概要 >

- ・ 50 歳代。重症心身障害者。嚥下障害あり胃瘻造設。普段から下剤を使用。
- ・ 1 日数回の水様～粘液便があり、便潜血検査陽性のため、大腸内視鏡検査が予定され入院した。
- ・ 検査 3 日前から 2 回ムーベンを注入し反応便があった。前日にムーベン500 mL とピコスルファートナトリウム、ピアーレシロップを注入したが反応便なく、当日にモビブレップを注入した。大腸内視鏡検査では腸内残渣が多く、洗浄しながら内視鏡を進め、横行結腸粘膜下腫瘍と診断された。検査翌日、心肺停止状態で発見され死亡した。
- ・ 死因は、多臓器不全。死亡時画像診断（Ai）有、解剖無。